

## 第50回夏季県外史跡踏査

### 北関東（古河・行田・新田・富岡・高崎・前橋）方面

#### —関東における政治・経済・文化の要を利根川水系に探る—

湘南高校定時制 丸山 理

#### 日程

- 8月17日（金）横浜駅（7時30分出発）—古河市（古河歴史資料館・川岸跡・古河総合公園）—行田市（さきたま古墳群・史跡博物館・忍城跡・行田市郷土博物館）—太田市（江田館跡発掘現場・新田荘歴史資料館・縁切寺満徳寺）—宿泊地（磯部温泉）
- 8月18日（土）宿泊地（8時発）—安中市（旧碓氷社本社事務所・新島襄旧宅・旧安中藩武家長屋）—富岡市（富岡製糸場）—高崎市（県立歴史博物館・群馬の森公園・綿貫観音山古墳）—前橋市（かみつけの里博物館・保渡田古墳群）—橋本駅—横浜駅

#### 古河市

蓮田SAにて講師の内山俊身先生（茨城県立古河第一高等学校定時制教頭）と合流し、車中にて古河の古代から近世までの歴史を解説していただいた。古河の立地は「香取海」と「東京湾」の二大内海経済圏の結節点であり、中山道と東北道の中継地ともなっており、平安京の立地と酷似する物流の中心地であったという。古河歴史博物館を鑑賞後、鎌倉街道沿いの旧城下町（近世古河藩）から渡良瀬川の中世馬借・河岸跡を見ながら、足利義氏の墓と伝古河公方御所跡のある古河総合公園へ向かった。公園の西に隣接する川戸台遺跡からは9世紀中ごろの製鉄・鑄造にかかわる遺物が大量に出土し、対蝦夷戦争とのかかわりが推定されている。なお、古河歴史シンポジウム（2010年11月開催）の記録が『古河の歴史を歩く』として出版（高志書院）され、内山氏の論文も収録されている。

#### 行田市

36度の炎天下、講師の高橋一夫先生（国士舘大学講師）に、さきたま古墳群を案内していただいた。8基の前方後円墳と1基の大円墳（丸墓山古墳）ほか方墳や小円墳群から成り、史跡整備が進んでいて圧巻の景観であった。ギラギラと照りつける太陽に曝されながら登った稲荷山古墳の墳頂部で、ワカタケル大王（雄略天皇）に仕えたヲワケの臣で有名な金錯銘鉄剣（さきたま史跡の博物館に実物展示）の出土した主体部を見ながら、5世紀から7世紀におけるこの地域の首長権継承の在り方とヤマト王権とのかかわりを解説していただいた。丸墓山古墳は戦国時代に石田三成の本陣が置かれ、敵対する成田氏の居城である忍城に水攻めを行うために荒川・利根川にまたがって築かれた「石田堤」の起点にもされた。墳頂部から望んだ忍城跡にある行田市郷土博物館では復元ジオラマや映像によって、天下人豊臣秀吉に挑んだ関東武士成田氏の気概を感じ取ることができた。

#### 太田市

太田市一帯は12世紀中ごろに成立した「新田荘」の故地で新田一族が割拠していたと言われ、11遺跡が国の史跡「新田荘遺跡」に指定されている。これらの内、江田館跡（新田義貞の鎌倉攻めに従軍した江田行義の館と伝えられる）の発掘現場を見学した。土塁と

堀で囲まれた「堀ノ内」と呼ばれる主郭部から 17 棟の掘立柱建物が検出されたが、鎌倉期ではなく戦国期のものであるという。天候悪化のため新田荘歴史資料館へ避難し、講師の小宮俊久先生（太田市教育委員会）に新田義貞挙兵までの荘園の歴史について解説をいただいた。車窓より縁切寺満徳寺と生品神社を見ながら磯部温泉へ向かった。

## 安中市・富岡市

二日目は午前には安中市の碓氷社本社建物・新島襄旧宅・安中藩武家屋敷などを見学し、官営模範工場であった富岡製糸場へ移動した。原合名会社時代に増設された食堂建物で今井幹夫先生（富岡製糸場総合研究センター所長）から講義を受けた後、施設見学を行った。特別の許可で「女工館」二階へ上がり、木骨煉瓦造りの倉庫や建物の構造について説明を受けた。官営・三井・原・片倉と経営者が変わり、施設の一部を作り替えながらも基本的な部分は設立当初の姿をとどめているところが、日本の代表的近代化遺産として世界遺産への推薦が決定した理由であるという。

## 高崎市

昼食後、富岡から高崎市の群馬の森公園へ。県立歴史博物館の講義室で手島仁先生（歴史博物館学芸員）から、旧陸軍の岩鼻火薬製造所の歴史とその跡地である公園について概説していただき、展示を見学した。爆撃機「富嶽」の復元模型や実物の「スバル 360」自動車を前に、中島飛行機製造所（戦後、富士重工業株式会社）創業者の中島和久平の生涯を聞き、産業県群馬の礎を築いたこと、政治家としても魅力的であったことを知った。

公園内の旧陸軍関係の建物はほとんど撤去され、わずかに土塁等が残存するのみという。

国指定史跡の綿貫観音山古墳は高崎市井野川西岸の平地に立地する墳丘長 97m、二重の濠をめぐらせた前方後円墳で、古墳時代後期の 6 世紀末の造営と推定される。1968 年からの発掘調査では、盾・家・鶏・大刀・蓋（きぬがさ）・翳（さしば）などの形象埴輪や多くの人物埴輪群が発見された。副葬品も豊富で、馬具や甲冑・武器類などが出土している。

墳丘は二段築成で、復元整備された現状では西南に向かって横穴石室が開口しており、石室内に入って見学することができる。石室は全長 12.5m で群馬県最大規模を誇る。

## 前橋市

ここから高島英之先生（群馬県教育委員会）に同行していただき、車中にて群馬県の古墳時代の解説をいただきながら、前橋市の保渡田古墳群・かみつけの里博物館へ向かった。

榛名山の麓にある保渡田古墳群は、5 世紀後半から 6 世紀初頭に築造された 100m 級の三基の前方後円墳（井出二子山古墳・八幡塚古墳・薬師塚古墳）と小円墳群から成る。なかでも八幡塚古墳は創建当初の姿を推定した復元整備が行われ、墳丘の表面は葺き石で覆われて、古墳がエジプトのピラミッドのような人工物である雰囲気醸し出している。周囲には多くの埴輪が立てられ、後円部地下には舟形石棺の埋葬状況も見ることができる施設が整えられている。近くには古墳群と同時期の首長の館と推定され「三ツ寺 I 遺跡」や集落遺跡・水田遺構・牧場跡が確認され、古墳時代の一大勢力拠点で、「毛野」地域の中心地であった。古墳からの出土物を展示したかみつけの里博物館は古墳ファンには必見であろう。そして夕暮れが迫る中、帰路についた。